

ヴァイオリニスト TAIRIK の戯言

〔第77回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

✦ 文 佐田大陸 ✦
text by Tairik Sada

自分の頭で考え、行動するとき
今年は、元旦から日本全体が暗澹たる
気持ちになるスタートとなりました。

我々が未曾有の災害を経験するたびに、悲しみとやるせなさ、もの凄いいスピードでSNSの中で伝播し、国中の活気が奪われます。ただ、そのときに自分にできることを考え、懸命に行動に移す人も多く、日本人の優しさと粘り強さにはどこか救われる思いがします。

音楽という、直接的に生命維持とは関係のない娯楽は、二の次になるのが当たり前。衣食住が揃い、命の保障、安全の保障がされた上でようやく考えられる娯楽。それ故に毎回、こういうことが起こるたびに否が応でも自分たちの活動意義や、存在意義を自問自答させられます。

TSUKEMENは1月20、21日と石川、福井の公演が控えていましたが、延期を決定しました。毎日刻々と変化する状況や世論。飛び交う情報も移り変わっていく中、全てのアーティストが自ら考えなくてはならない自分たちの立ち居振る舞い。同じ事象などは存在せず、前例のないことの連続です。動いた結果が、正解だったのか、失敗だったのか分かるのは大分後になってからのことですし、もしかして、正

確にそれをジャッジできる人はいないのかもしれない。

被災地へ想いを馳せながらも必要とされる客観力。その2つの気持ちの交錯する地点はどこか、考えを巡らせます。

思考停止になり周りと同じように右向け右になっていないか、自分たちの正義はどこにあるのか、それを連日チームで話し合いました。世論は「こんなときに被災地へ行ってLIVEはすべきではない」でしたが、必要で先立つお金をチャリティで寄付することができ、無事、何事もなく演奏を届けられるのであれば行ったほうが良い、と思っていました。

ただ、なお余震続きで、今日日本で一番注意が必要な場所に行つて、万が一当日に何かが起きてお客さんを巻き込んでしまうリスクを考えると、それを押してまでやる正義はないと考えました。自分たちにとって何がお客さんファーストかと考えたときに、まずはお客さんの安全が最優先。そして楽しめるときに、心から楽しめる場所を提供することが大切だからです。

たとえ結果がどうあれ、国民一人一人が「今自分にできることはなんだろう」と向き合い、考え、行動することができれば、まだこの国も捨てたものではないと思います。

料理は美味しいし、四季は美しいし、僕はこの国が大好きです。
これからもこの国で生きていくために。
綺麗な事のようにだけど、そう思います。

profile

TAIRIK(たいりく) ヴァイオリニスト / ヴィオリスト / 作曲家

桐朋学園大学音楽部卒業、同大学院修了

ヴァイオリン & ピアノによる3人組インスト・ユニット「TSUKEMEN」を結成後、キングレコードよりメジャーデビュー。最新アルバム「HAPPY キッチン」など、リリースしたCDはクラシック・チャート1位を次々と獲得。国内にとどまらず、アメリカ、アジア、ヨーロッパなどで700本を超える舞台に立ち、50万人以上の観客を魅了。近年ではTSUKEMENに加え、古澤巖氏と結成した弦楽四重奏団「品川カルテット」、水谷晃氏と結成した「MIZUTANI×TAIRIK」も大反響を呼んでいる。

「徹子の部屋」「題名のない音楽会」「きょうの料理 栗原はるみのキッチン日和」など数多くのTV番組に出演。SBCラジオ「TSUKEMEN TAIRIKの信 TAIRIK発見」毎週月曜 15:00 台にレギュラー出演中。

<https://tsukemen-music.com>